

令和4年度 第2回千葉県博物館協議会会議

日 時 令和5年2月9日(木)
午前10時から
会 場 オンライン

次第

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 議事
 (1) 県立博物館・美術館のホームページの現状と課題
 (2) その他
- 4 行政説明
- 5 諸連絡
- 6 閉会

令和4年度第2回千葉県博物館協議会 座席表

井口委員



事務局

オンライン

高橋議長

美術館 山本 館長

濱田委員

中央博物館 植野 館長

卯木委員

現代産業科学館 田中 館長

湯浅委員

鴻野委員

関宿城博物館 米谷 館長

細矢委員

房総のむら 望月 館長

細田委員

門脇委員

環境生活部文化振興課
戸崎 副参事

千葉県博物館協議会委員

| 分野 | 委員 | |
|---------------|---------------------|---------------------|
| | 氏名 | 所属等 |
| 学校教育 | ハマダ モトコ 濱田 素子 | 富里市立浩養小学校 校長 |
| 社会教育 | イグチ タカシ 井口 崇 | 袖ヶ浦市郷土博物館 顧問 |
| 家庭教育 | ウキ イツミ 卯木 伊津美 | 千葉県子ども会育成連合会 副会長 |
| 学識経験者 (歴史) | ユアサ ハルヒサ 湯浅 治久 | 専修大学文学部 教授 |
| 学識経験者 (民俗) | セキザワ 関沢 まゆみ | 国立歴史民俗博物館 副館長 |
| 学識経験者 (美術) | コウノ ナ 鴻野 わか菜 | 早稲田大学総合科学学術院 教育学部教授 |
| 学識経験者 (自然) | ホソヤ ツヨシ 細矢 剛 | 国立科学博物館植物研究部 部長 |
| 学識経験者 (理工) | タカハシ マサン 高橋 正 | 東邦大学 名誉教授 |
| 学識経験者 (広報) | ホソダ ミヅコ 細田 美和子 | NHK千葉放送局 局長 |
| 学識経験者 (観光) | カドワキ イチロウ 門脇 伊知郎 | 合同会社わんぱく 代表 |

(任期: 令和4年12月1日～令和6年11月30日)

令和4年度 第2回千葉県博物館協議会会議 出席職員名簿

千葉県立美術館・博物館長

| 館名 | 職名 | 氏名 |
|-------------|----|-------|
| 千葉県立美術館 | 館長 | 山本 昇 |
| 千葉県立中央博物館 | 館長 | 植野 英夫 |
| 千葉県立現代産業科学館 | 館長 | 田中 文昭 |
| 千葉県立関宿城博物館 | 館長 | 米谷 博 |
| 千葉県立房総のむら | 館長 | 望月 賢二 |

千葉県環境生活部文化振興課

| 部課名 | 職名 | 氏名 |
|------------|-----------|--------|
| 環境生活部文化振興課 | 副参事 | 戸崎 将宏 |
| 環境生活部文化振興課 | 主幹兼学芸振興室長 | 立和名 明美 |
| 環境生活部文化振興課 | 技師 | 小出 麻友美 |

千葉県立美術館・博物館職員

| 館名 | 職名 | 氏名 |
|----------------------|------------|--------|
| 千葉県立美術館 | 副館長 | 中松 れい |
| 千葉県立美術館 | 普及課長 | 鈴木 敬子 |
| 千葉県立中央博物館 | 副館長 | 高梨 俊夫 |
| 千葉県立中央博物館 | 自然誌・歴史研究部長 | 幅 大 |
| 千葉県立中央博物館 | 生態・環境研究部長 | 小田島 高之 |
| 千葉県立中央博物館 | 資料管理研究科長 | 御巫 由紀 |
| 千葉県立中央博物館 分館海の博物館 | 分館長 | 斎木 健一 |
| 千葉県立現代産業科学館 | 普及課長 | 植野 百代 |
| 千葉県立現代産業科学館 | 学芸課長 | 竹内 洋子 |
| 千葉県立関宿城博物館 | 学芸課長 | 尾崎 晃 |
| 千葉県立房総のむら | 副館長 | 大森 けい子 |

事務局

| 館名 | 職名 | 氏名 |
|-----------|--------|-------|
| 千葉県立中央博物館 | 企画調整課長 | 島立 理子 |
| | 上席研究員 | 関 諒一 |
| | 上席研究員 | 吹春 俊光 |
| | 上席研究員 | 山本 伸子 |
| | 研究員 | 玉井 里奈 |
| | 研究員 | 樽 宗一郎 |

令和4年度第2回千葉県博物館協議会

資料

[資料]

千葉県立博物館・美術館のホームページの現状と課題

| | |
|--------------------|----|
| 美術館 | 1 |
| 中央博物館 | 4 |
| 現代産業科学館 | 7 |
| 関宿城博物館 | 10 |
| 房総のむら | 11 |
| 別紙（各館デジタルミュージアム一覧） | 14 |

参考資料

- ・千葉県博物館協議会傍聴要領

ホームページの現状と課題

令和5年2月9日

美術館

A. 概要

当館のホームページは以下の10区分で構成している。その概要は次のとおりである。

1 展覧会

「開催中の展覧会」「これからの展覧会」「過去の展覧会」にカテゴリーを分け、企画展やコレクション展等の展示内容を紹介している。年度初めの簡易的な展覧会の紹介に加え、各展覧会の開催に伴い、その詳細情報を公開。過去の展覧会内容は2017年度以降を掲示。

2 イベント

当館で行っているワークショップ、実技講座、ギャラリートーク、講演会、ミュージアムコンサート等の行事を紹介している。また大学との連携事業の一つである連携展示の紹介や、コロナ禍において自宅でアートを作ったり、学んだりする「おうちでアートを楽しもう」のコーナーも紹介中。

3 スクールプログラム

来館時の学校団体に向けた鑑賞教室の紹介、学校向けの学習キットの貸出の紹介をしている。学校団体の申込方法や博物館実習の説明も行っている。

4 コレクション

当館では近現代以降の、千葉県にゆかりのある美術家の作品や関係する資料を収集するとともに、特に著名な国の美術家の作品及び関係資料の収集を行っている。その収蔵作品のデータベースによる検索や、収蔵資料による仮想展覧会「デジタルミュージアムの配信」を10本行っている。

デジタルミュージアム：

「堀江正章の軌跡」「パリの浅井忠」「篠崎輝夫とシルクロード」「描かれた房総」
「浅井忠の軌跡」「アート・コレクション」「石井柏亭」「日本水彩画史の作家と作品」
「香取秀真と津田信夫」「藤田喬平のガラスの世界」(全10番組)

5 美術館について

当館の使命や概要について紹介。

6 団体展

当館の展示室を使用して開催される県内美術団体の展覧会を紹介。

7 利用案内

開館時間や入場料、交通アクセスのほか、館内施設案内、図書閲覧ができる情報資料室、カフェレストラン、ミュージアムショップについて紹介。ミュージアム・サポーター（ボランティア）、メールマガジン登録、関連する機関のリンク先などもこちらで紹介。

8 友の会

当館開館の翌年に発足した千葉県立美術館友の会の紹介ページ。美術と当館を愛する人々の集まりとして、様々な活動を実施しており、それを紹介。

9 Foreign language

博物館の概要、展示、ご利用案内について、英語・繁体字・簡体中文で紹介。

10 トップページ

What's New として新着情報の紹介や当館公式 YouTube チャンネル・Twitter を紹介し、ページ誘導を行っている。

B. 現在の運用方法

展覧会の詳細情報やイベント情報の紹介など、随時更新している。担当者は2人で、更新は年間100回程度である。

これに加え、今年度は以下の3つを実施した。

1 展覧会動画の製作・公開

第3期コレクション展、企画展「江口寿史イラストレーション展 彼女」、「山下麻衣プラス小林直人展」の広報動画を製作し、YouTube で公開。

2 Twitter と連携した広報

週1回程度の更新だった Twitter を、企画展「江口寿史イラストレーション展 彼女」に向け、週2回以上とし、会期前や終盤には、毎日更新するなど、広報活動を強化した。

3 「おうちでアートを楽しもう」の充実

自宅でアートを楽しむプログラムの充実を図るため、第3期コレクション展「名品3ークールベの嵐ー」で作成した『クールベってどんなひと?』のホームページ化を進めており、年度内に公開予定である。

C. 課題と改善案

1 全体のデザイン

簡素で見やすいホームページではあるが、文字が多く、画像が少ないため、情報量が少なく感じる。

改善案：画像やアイコンなどを利用することと、背景色の変化、線での区切りなどを用い、見やすさを図る。

2 戻るボタンの設置

トップページから第1階層、第2階層と進むが、それぞれの場所に戻るための細かいボタンの設置がされていない。

改善案：場所に応じたボタンの設置。

3 トップページ

現在は、トップページの編集を担当者レベルではできない。

改善案：担当者が自由にデザイン変更できるものに変更。

4 内容の充実

(1) 建物の魅力を伝えるページの新設。

(2) 収蔵作家の紹介を充実させる。

(3) 常設彫刻の紹介ページの作成と、彫刻探検ツアーとのリンク。

ホームページの現状と課題

令和5年2月9日 中央博物館

概要

当館のホームページのコンテンツ概要は以下の通りである。

1. 展示

常設展示、企画展示の内容を紹介している。企画展示は平成14年度以降の内容を紹介している。

2. イベント

当館で行っている講座、観察会等の行事を紹介している。月ごとの行事一覧ページと分野ごとの行事一覧ページを作成している。

3. 教育・学習

学校団体向けに当館で行っている学習プログラム、学習キット、連携事業を紹介している。学校団体の申込方法や博物館実習もこのページで行っている。

4. 研究と資料

当館が行っている研究の内容やその成果、研究職員の紹介、研究報告を含む刊行物の情報を提供している。また、資料の閲覧、貸出に関する手続き方法の紹介や資料のデータベースへのリンクを貼っている。

5. 博物館について

当館の使命や特色について紹介している。また、国立歴史民俗博物館や東京大学千葉演習林など、協定を結んでいる他機関を紹介している。

6. ご利用案内

開館スケジュール、館内設備、交通アクセス、一般団体への案内を行なっている。ボランティアやメールマガジンについても案内している。

7. 生態園・山のフィールドミュージアム

本館に併設する屋外施設、生態園と、山のフィールドミュージアム（房総丘陵全域をフィールドとし、山の自然や文化そのものを“資料”や“展示物”と考える、建物のない博物館活動）を紹介する。山のフィールドミュージアムページは毎月、房総丘陵南部で見られたものについて、「フィールドノート」として記事を配信している。今年度は、162本の記事を追加した。

8. デジタルミュージアム

令和5年1月1日現在、53コンテンツを公開している。内容は過去の展示会やweb図

鑑などさまざまである。

9. お家で中央博

小中学校における一人一台端末の整備及びコロナ禍が教育現場のリモート化を大きく進行させたことを踏まえ、令和2年度に、特設サイト「おうちで中央博」を設け、子供たちが博物館に来られない環境の中で、博物館を楽しむ機会を提供している。また、教員に対しては、令和3年度に、ホームページに教員向けコンテンツも追加するとともに、これらを活用した教員研修を通信講座で開催した。

10. Foreign language

博物館の概要、展示、ご利用案内について、英語で紹介を行っている。

11. その他

臨時休館等、上のどこにも当てはまらないものを紹介している。

現在の運用方法

イベント情報の連絡など、随時更新している。担当者は本館2名、各分館1名の計5名ある。

これに加え、今年度は以下の3点を行なった。

1. 特別展「鯨」と秋の展示「おはまおり」の展示作業の裏側を公開

あまり知られていない展示作業について、ブログ形式で作業を公開した。各記事の公開に合わせて、Twitterで同時に配信を行った。特別展「鯨」の来館者のアンケートやTwitterで好評であった。

2. 「研究紹介」ページの刷新

博物館の最新の研究成果を広く周知するために、「研究成果発信用フォーマット」(別紙)を作成し、館内に配布した。これを公開することで、館内の学芸員が発表した論文の概要を日本語で知ることができる。1と同様、ホームページ公開時にtwitterでも発信している。

3. ダイバーとコラボした同定サービスの開始

千葉ダイビングサービス協力会と協力し、ダイバーが撮影した海の生きものの名前を学芸員が調べるサービス「房総 海の生きもの図鑑」を開始した。

ダイバーにとって自分が撮影した生きものの名前を知ることができただけでなく、博物館としても、多様な生きものが住む本県の海の魅力を発信することができる。とともに、学芸員だけでは調査しきれない広いエリアをきめ細かく調査することができ、新たな発見につながる可能性がある。

課題と改善案

1. 行事カレンダーがわかりにくい

→来館者から最も使いにくいと意見があるのが、行事カレンダーである。行事カレンダーは、トップページの中段にあり、クリックすると月の一覧で行事が表示される仕様になっているが、対象とする日にどのような行事が行われているのか、非常にわかりにくい。

改善案：カレンダーをクリックすると、当該日のイベントを表示。トップページに当日の開館状況、イベントを表示。

2. 画像アップロードや動画の自由度が低い。

→現在、画像のアップロード容量は上限が2MBである。動画の埋め込みはできず、YouTubeのリンクを貼ることで対応している。

改善案：画像のアップロード容量の拡大、リンクの埋め込みへの対応。

ホームページの現状と課題

令和5年2月9日 現代産業科学館

概要

当館のホームページのコンテンツ概要は以下のとおりである。

1. 展示・実験

常設展示、演示実験、企画展（特別展）、プラネタリウム、特設コーナーの詳細を紹介している。常設展示以外の展示情報については、告知バナーにも展示情報としてまとめており、それぞれの展示に関する情報を掲載している。

2. イベント

当館で行っているイベント等（科学館わくわく教室、企画展、展示運営協力会）の行事を紹介している。イベント情報の紹介については、告知バナーにもイベント情報としてまとめ、それぞれのイベントに関する詳細を掲載している。その他に、イベントの様子を掲載するページがあり、年度ごとにまとめて掲載している。

3. 利用案内

ご利用案内、開館日カレンダー、施設について、Twitter、YouTube について紹介している。このページを閲覧することで、当館の利用に関する概要について知ることができる。Twitter、YouTube については、運用ポリシーをここに掲載している。

4. 学校など団体

学校等団体の申込方法、減免申請の方法、団体の手引き、博物館実習の募集等をこのページで行っている。学校団体向けに当館で行っている学習キットの貸出し、出張講座、解説ツアー、職場体験等を紹介している。

5. アクセス

交通アクセスや周辺地図について紹介している。

6. トピックス

イベント情報、イベントの様子、展示情報等の新着情報を掲載している。

7. 展示・運営協力会について

運営の趣旨や、館の活動の趣旨に賛同し、専門知識を有する団体及び個人について、会員一覧を紹介している。

8. 伝えたい千葉の産業技術 100 選

千葉県内における歴史的な産業技術を次世代に伝えることを目的として「伝えたい千葉の産業技術 100 選」を創設しており、選定した産業技術を紹介している。一覧から、選定内容を閲覧することができる。

9. 不思議のたね 音声ガイド

現代産業の歴史のフロアを中心に、館内 15 か所の展示説明を音声で聞くことができる。フロアに展示している二次元コードと連動している。

10. 収蔵資料検索

当館の収蔵資料を検索し、情報を閲覧することができる。

11. 現代産業科学館 おうちシリーズ

「おうち」にある材料で、簡単にできる工作「おうちでつくってみよう」と、簡単な科学実験「おうちでマジックしよう」、当館の収蔵物や展示物を紹介する「おうちでミュージアム WEB」を掲載している。

12. 現代産業科学館メールマガジンのご案内

メールマガジンの概要、登録フォームについて掲載している。

13. Foreign language Pamphlet

当館のパンフレットを外国語表記（英語、中国語、韓国語）で紹介している。

14. 現代産業科学館について

当館の使命・目的、沿革、館長あいさつ、過去の企画展・特別展一覧、調査・研究活動、年報について、紹介、掲載をしている。

現在の運用方法

展示情報、イベント情報、感染症対策についてなど、随時更新している。担当者は1人で、ホームページ掲載用のマニュアルを作成し、フォローしあって運用を行っている。

1. メインビジュアル、告知バナーの活用

メインビジュアルには、閲覧していただく方にご覧いただきたい、重要な内容を掲載するようにしている。今年度については、感染症対策、プラネタリウム、企画展、展示運営協力会主催事業、団体利用の手引きなど、特にご覧いただきたい内容について、期間を長く、わかりやすく掲載するように努めた。プラネタリウム開催期間中は、メインビジュアルを経由して予約フォームにリンクするようにしたため、閲覧件数、閲覧者の数字が多くなるといった成果が見られた。

告知バナーから、展示情報、イベント情報などを選択し、それぞれのページ進むと詳細情報を閲覧することができる。現在、参加型のイベントは事前予約制としているため、イベント情報から内容をご覧いただき、予約フォームで申し込みをする方法にしている。

2. コロナ後の事業の再開

今年度は、コロナ後の事業の再開が多くあった。団体予約、出張講座、解説ツアー、職場体験等、事業の再開とともに、予約方法や内容等、適時掲載を行った。団体予約、出張講座については、多くの団体にご利用いただくことができた。

課題と改善案

1. 展示情報、イベント情報がわかりにくい

→現在は、それぞれを告知バナーにまとめて掲載しているが、それぞれの情報をトップページに文字情報として並べて掲載できることが望ましい。

2. トップページの自由度が低い

→現在使用している iCity-Portal は、トップページの編集が、業者対応となってしまっている。

3. イベントの予約フォームと予約後の編集作業

→現在の博物館情報システムの予約フォームでは、予約した方の情報がテキスト情報としてメールで受信する形となっており、予約後の編集作業に多大な労力が必要となる。

→申し込み情報が Excel や CSV ファイルで一覧となり、一括してダウンロードすることができるなど、改善を要望したい。

4. パソコン画面とスマートフォン画面（携帯画面）の連動

→ホームページの画面が、スマートフォン画面では大変見にくい状況となっている。例えば、パソコンでは一見することができても、スマートフォン画面では一見してみることができず、見たいものをスムーズに探せないなど課題がある。

→パソコン画面とスマートフォン画面（携帯画面）がうまく連動し、見やすい画面にできるように、改善を要望したい。

関宿城博物館のホームページの現状と課題

令和5年2月9日 関宿城博物館

【ホームページのコンテンツ】

ご利用案内、常設展示、企画展示、新着情報、催事・イベント情報、ピックアップコンテンツ、学校団体・一般団体の方へのリンクを張っている。ポータル新着情報、催事・イベント情報は随時更新している。

1. 展示案内

常設展示、企画展示、過去の企画展の内容を紹介している。企画展示は平成30年度以降の内容を紹介している。

2. イベント・催事

当館で行っている歴史講座、博物館セミナー、ミュージアムトーク、体験教室、イベント、ワークショップ、野外講座等の行事を紹介している。

3. 当館の活動

研究活動、おうちで博物館、郷土食レシピ、収蔵資料、研究職員紹介、ボランティア募集、刊行物、博物館の概要と活動実績、せきはく豆辞典バックナンバーを紹介している。「おうちで博物館」では6つのカテゴリーで計25コンテンツ、デジタルミュージアムは9コンテンツをUPしている。「せきはく豆辞典バックナンバー」は館メルマガに毎月館職員が寄稿している記事を掲載している。

4. 当館について

当館周辺のスポット、フォトギャラリー、河川敷の春だより、Q&A、関連リンクを紹介している。「当館について」では館の使命、運営の方針、沿革などを紹介している。

5. ご利用案内

開館カレンダー、ライトアップの時間帯、団体予約、館内バリアフリー案内図、行事案内、お問い合わせ、資料の閲覧・貸出等についての案内を行なっている。

6. Foreign language

博物館の概要、展示、利用案内について、英語と中国語（簡体中文）で紹介を行っている。

【現在の運用方法】

随時更新している。館職員1名が担当者している。今年度は企画展「関東 塩ものがたり」の関連事業として職員が海岸でアマモと海水を採取して、塩作りを試行した「房総の海から塩を採る」を絵日記風に公開した。合計24回更新した。

また、トップページにPRとして館の最大の特徴である天守閣の四季の景観を載せている。

【課題と改善案】

1. 現在、通信が暗号化されていない (http://) ので、暗号化 (https://) するべきである

改善案：業者に対応してもらう。

2. トップページの自由度が低い

→現在使用している iCity-Portal は、トップページの編集が、業者対応となってしまう。

改善案：拡張性と自由度が高い、WordPress に移行。

3. 講座や団体見学の申し込みは、将来的にネットで可能にする事が求められる。

改善案：全県的に対応できるよう必要な準備を行う。

概要

当館では、ホームページ、公式マスコットキャラクター「ぼうじろー」によるツイッター、房総のむら歳時記ブログ等を広報媒体や団体見学等の受付に活用している。

■コンテンツの概要

1 ホームページ

(1) 施設案内

館内施設について階層別に「全体図」→「各エリア」→「各施設」へとリンクする形式で紹介している。

(2) 体験演目・スケジュール

当館で行っている約400演目の各種体験の申込方法や時間、定員、費用、参加対象者について、ここで解説を行っている。

(3) 展覧会・イベント

年6回開催している「まつり」や企画展、トピックス展など、主だった行事について月別にここで解説している。

(4) 団体利用

団体見学の申し込みは、基本的にホームページとは別のWEBから、来館希望日の30日前までに申し込む方式であり、ここで解説をしている。

(5) ご利用案内

開館時間、休館日、入場料など、利用に関する案内や、交通アクセス、映像作品のロケーション案内、コスプレなどの個人での撮影など、各種の案内や注意事項、遵守事項等を解説している。

(6) 房総のむらとは

当館の設置準備から開館、現在に至るまでの「沿革」や、当該年度の館職員紹介、刊行物の紹介をここで案内している。

2 ぼうじろー名義のツイッター

(1) 掲載内容

館内のイベント情報や体験、実演の様子、館内の自然、日常の出来事などを掲載する。マスコットキャラクターの特長を生かし、ぼうじろーがしゃべっているような親しみやすい言葉遣いで掲載する。

(2) ツイッターの更新

更新は随時とするが、週1回以上の更新を予定している。

(3) 利用者からの返信への対応

利用者からの返信を受けた場合は、基本的に「いいね」のみで対応している。ただし、いたずらや迷惑行為は原則対応しない。悪質な場合はブロック、スパム報告などで対応する。

(4) 「なりすまし」対策

房総のむらホームページ内に「ぼうじろーの巣」というページを設け、そこからツイッターのアカウントにリンクすることにより、公式アカウントであることを周知している。また、メールマガジンによる情報発信を毎月行っている。

3 歳時記ブログ等

ぼうじろーツイッターと同様、週1回程度の更新をして、館内花だよりやイベント告知等の情報発信を行っている。

■現在の運用方法

イベント情報の掲載や、体験演目の変更、予約状況等の更新など、広報・普及グループの職員が随時実施している。

1 館内の案内や、「体験のしおり」などにQRコードを表示し、むらのホームページへの誘導を行っている。

2 団体予約とのリンク

団体見学や団体体験の予約は外部の専用サイトと契約し、リンクを貼って対応している。

■課題と改善案等について

1 団体体験の予約数調整が難しい

新型コロナへの対応等、各種体験の予約数を職員が変更できるようにするため、現在、プログラムを改修中である。

2 各種予約体験の状況確認や、予約申し込みができない

電話や往復はがきなどによる抽選申し込みなど、利用者の利便を図るために複数の申込方法をとっていることから、リアルタイムで予約状況の確認をすることが難しい。

今後は、他館の状況などを勘案しながら、WEBでの申し込みなどへの移行を検討したい。

3 風土記の丘資料館再開によるホームページリニューアル

現在、風土記の丘資料館は大規模改修中のため休館している。館内の展示も全て製作し直すなど、施設設備だけの改修では無いことから、展示替え終了後に新たな写真撮影などを行い、図録作成等と合わせたホームページのリニューアルが必要である。

4 まつりの日などに館内の混雑状況等を伝える方策

将来的には来館者のスマートフォン情報などによる入館状況把握が必要と考えるが、当面は職員によるツイートを随時行うなど、情報発信に努めていく必要がある。

5 館内Wi-Fiの受信範囲が狭い

現在、県博物館情報システムを介したフリーWi-Fiのポイントは、総屋に限られている。予算等の関係もあるが、今後、対象範囲の拡大を検討してほしい。

美術館

| | |
|----------------|---|
| 1 浅井忠の軌跡 | 千葉県ゆかりの画家 浅井忠の多彩な足跡を千葉県立美術館の収蔵作品によりご紹介します。 |
| 2 日本水彩画史の作家と作品 | この番組では、当館収蔵作品中の水彩画から1953年以前に没した作家の作品を取り上げました。 |
| 3 アート・コレクション | この番組では、収蔵作品のなかから18点を選び、カラー画像に解説を加え鑑賞の手引きとして紹介しています。 |
| 4 香取秀真と津田信夫 | わが国の近代金工史の先駆者として並び称せられる香取と津田の作品を紹介します。 |
| 5 石井柏亭 | 浅井忠に洋画を学び、明治から昭和にかけて活躍した洋画家石井柏亭を当館の収蔵作品より紹介します。 |
| 6 藤田喬平のガラスの世界 | 戦後日本を代表するガラス工芸家・藤田喬平の、飾篭（かざりぼこ）やヴェネチア花瓶、オブジェなど収蔵作品の中からご紹介いたします。 |
| 7 描かれた房総 | 房総半島の様々な風景を、東京湾沿岸、北西部、北総、東総、南房総の地域ごとに描かれた作品を紹介します。 |
| 8 篠崎輝夫とシルクロード | アジアとヨーロッパを結ぶ「シルクロード」。篠崎輝夫の作品を通して、悠久のシルクロードを旅してみましょ。 |
| 9 パリの浅井忠 | 浅井忠の留学期間のうち、1900年4月から12月頃までのパリでの生活、作品、ピングや夏目漱石との交流について紹介します。 |
| 10 堀江正章の軌跡 | 堀江正章は、日本初の官立美術学校「工部美術学校」を卒業後、多くの逸材を育てました。堀江の足跡を辿りながら、弟子の作品も併せてご紹介します。 |

中央博物館

| | |
|-------------------|---|
| 1 耳をたよりにプロジェクト | 音を手がかりに自然の音や環境に親しみましょ。耳の体操と「ききみみずきん」が新しい世界を開きます。 |
| 2 音の標本箱 | 生態園観察会「とりの声キャッチ名人」などに参加されたみなさんがキャッチした鳥やカエル、鳴く虫の音を聞き比べられます。 |
| 3 野草・雑草検索図鑑 | 公園や校庭にみられる身近な野草・雑草の名前を調べたり、実物大の写真がのっている「野草カード」をダウンロードしたりできます。 |
| 4 房総の山のケモノ | 房総丘陵に棲息するケモノを、自動撮影装置による動画やさまざまな写真で紹介いたします。 |
| 5 花の植物画集 | 世界最古の植物学の雑誌「カーチス植物学雑誌」より約50枚の美しい植物画を紹介します。 |
| 6 館蔵美術品紹介（絵画） | 当館所蔵の美術品の中から浮世絵や肉筆画、屏風絵などの絵画作品をご紹介します。 |
| 7 房総の植物誌づくりと中央博物館 | こんなに役に立つ、こんな風に保存していくなど、博物館の資料収集と整理保管事業のご紹介です。 |

| | | |
|----|--------------------|--|
| 8 | 千葉県の毒きのこ | 千葉県にも、命を落としてしまうような猛毒のきのこが見られます。その番付を作り、十傑についてご紹介します。 |
| 9 | 下総台地と周辺の貝化石 | 下総台地や周辺の平野の地下から出てくる貝化石で、よく出てくる貝化石を選んで紹介する図鑑です。 |
| 10 | 空からみた千葉県（1987・88年） | 地形や地質の説明のために撮った、千葉県の空中斜め写真コレクションです。 |
| 11 | 千葉県の滝一所在と成因 | 千葉県には良い滝がたくさんあります。それらをご紹介。さらに、全国ではじめての滝の地学的な解説ページです。 |
| 12 | 故・林辰雄氏撮影写真集 | 埋め立て前の東京湾での人々の暮らしと自然を撮影した写真で著名な林辰雄氏の写真の中から東京湾の干潟の風景とその漁業者たちの生活風景を示した写真を紹介します。 |
| 13 | 生態園植物歳時記 | 生態園の季節ごとに咲く花々、結実する木の実・草の実、冬の芽生えなど四季折々の植物の姿を美しい画像でご紹介します。 |
| 14 | カラス大調査 | 2001年11月、君津市立清和中学校1年生34人と協力して地域にすむカラスの生態を調査した記録です。 |
| 15 | カエル教室 | 真冬の田んぼでカエルの卵さがし、リアルなカエルの模型づくり、小学生たちがカエルを通して身近な自然を学びました。 |
| 16 | 浮世絵に見る江戸時代の園芸 | 江戸時代の園芸文化は世界にも類を見ないほど多様性に富み、かつ洗練されたものでした。中央博物館の所蔵資料（故岩佐亮二千葉大学名誉教授収集）から、江戸時代の四季の生活風景と園芸植物が描かれた浮世絵24点を紹介します。 |
| 17 | 房総のハチ世界のハチ | ミツバチやスズメバチだけがハチではありません。常識を覆すハチに関する豆知識とともに、房総及び世界のハチたちを3方向から撮影した画像で紹介합니다。 |
| 18 | 百年前の千葉県 『日本博覧図』 | 明治半ばに発刊された『日本博覧図』千葉県初編・後編に掲載されている銅版画の中から、寺社を中心に50点を紹介します。 |
| 19 | 環境教育と千葉県 | 平成16年度に実施した環境教育フォーラムを紹介します。 |
| 20 | 旅する地球の水 | 平成17年度企画展「ワクワクたいけん2005 旅する地球の水」の報告書や水学習キットなどを紹介しています。 |
| 21 | ききみみコレクション | 中央博物館が収集している自然や環境の音のコレクションから、多様な音の世界を聞いてください。収蔵庫の中の録音方法も見ることができます。 |
| 22 | おばあちゃんの畑プロジェクト | 房総丘陵でNPO、地域の団体などが「おばあちゃんの畑」をテーマに、様々な活動をしているプロジェクトについて紹介します。 |
| 23 | 梵天にみる房総の出羽三山信仰 | 江戸時代から千葉県各地に伝わる神様の依り代、梵天（ぼんてん）と出羽三山信仰について紹介します。 |
| 24 | ネパールと東南アジアのガ | 春田俊郎コレクションを中心とする中央博物館収蔵の蛾の標本を紹介します。 |
| 25 | 維管束植物標本百選 | 中央博物館で収蔵している維管束植物標本の中から、厳選した100点を紹介します。 |

| | | |
|----|------------------|--|
| 26 | 地域の音が出る地図 | 地域の自然や文化の音を地図上で聞くことができる「地域の音が出る地図」を紹介します。 |
| 27 | 昆虫標本のつくり方 | 価値のある昆虫標本を作るための道具や方法をわかりやすい動画で紹介しています。 |
| 28 | 房総ジオツアー | 「房総ジオツアー」は、千葉県地質調査研究および地学資料の収集活動の成果の一部として地域毎の地質・地形をまとめたシリーズです。 |
| 29 | 樹木検索図鑑 | 樹木の名前を、葉の形、大きさ、花の色、花の時期、実の形、場所など、様々な条件を組み合わせて調べることができます。 |
| 30 | 中央博資料百選 | 各分野の研究者が選んだ中央博のお宝ともいべき資料を紹介します。 |
| 31 | 地衣類って何？ | 菌類の仲間なのに、こけと呼ばれている、この不思議な生き物を紹介します。 |
| 32 | 房総（千葉県）の地衣類誌 | 房総、つまり千葉県に産する地衣類について、詳しく調べ記録してきました。その成果を、図鑑などの形で紹介していきます。 |
| 33 | 生態園の外来哺乳類 | 生態園で見つかったアライグマやハクビシンなどの外来哺乳類について紹介するとともに、哺乳類の調査方法について紹介します。 |
| 34 | 房総の海の遊び | 令和2年度トピックス展「房総の海の遊び 絵はがきを中心に」を基にしています。展示に使用した絵はがきや古写真をデータベースで検索できます。 |
| 35 | 海岸生地衣類 | 海岸の岩場は、灰色や橙色、黒など、様々な色の地衣類で覆われます。こんな海岸生地衣類を詳しく調べた成果を、図鑑にまとめました。 |
| 36 | 地衣類のタイプ標本 | タイプ標本とは、新種の基準となる、いわばお宝。当館職員等によって発表された地衣類の新種93種のタイプ標本を紹介します。 |
| 37 | タネの大冒険 | 生態園で見られる身近な植物を中心にいろいろなタネとその散布方法を、タネの冒険の旅に見立てて照会します。 |
| 38 | ノスタルジックポストカード | 令和2年度収蔵資料展「ノスタルジック・ポストカード」をベースにした内容です。展示に使用した絵はがき画像をデータベースで検索できます。 |
| 39 | 淡水生地衣類 | 河川の上流でときどき水没する岩の上には、特有の地衣類が生えます。そんな淡水生地衣類を詳しく調べた結果を、図鑑にまとめました。 |
| 40 | 地球史にチバニアンが誕生 | チバニアンの解説ページです。中央博制作の「チバニアン」がよくわかる解説動画は、こちらからご覧いただけます。 |
| 41 | 生態園の自然～生きもの写真記録～ | 都市の中に房総の自然を再現した生態園は、気軽に訪れて「本物の自然」に触れることのできる場所です。毎日のように移り変わる自然の多様な姿を中央博物館の研究者が記録し報告します。 |

| | | |
|----------------|----------------|--|
| | 42 山の科学画 | この展示図録は、平成19年（2007年）3月～5月に中央博物館で開催された春の展示「山の科学画」の展示物・解説を、配列方法も含めて全て紹介する展示会の実践記録です。 |
| | 43 日本の地衣類 | 日本に産する地衣類を対象とする、生態写真と標本の拡大写真とを組み合わせた図鑑です。最初は約400種を掲載しますが、日本から記録されている約1700種全種を網羅することを目標としてデータを追加していきます。 |
| | 44 世界のクジラ全種リスト | 地球上に生息するクジラ類91種のリストです。全種について、和名、学名、英名を示します。亜目や科ごとに絞り込み表示ができます。ダウンロード可能なPDFもあります。 |
| | 45 地衣成分 | 地衣類特有の化学成分を解説します。スライドグラス上で結晶を作ったり、薄層クロマトグラフィーでの分析などを紹介。日本産地衣類の地衣成分のデータベースを整備していきます。 |
| 大利根分館 | 1 水郷の原風景 | 千葉県香取市周辺にある水郷と呼ばれる地域の、かつての風景を物語る写真資料を主にまとめました。 |
| | 2 むかしの道具 | 社会科郷土学習「昔の暮らし」の教材として開発しました。ぜひご利用ください。 |
| 大多喜城分館 | 1 甲冑展 | 当館所蔵の甲冑を中心にしながら、武具の代表である甲冑の歴史と様式、構造や構成についてご紹介します。 |
| | 2 武具のデザイン | 当館収蔵の甲冑・刀剣など武器・武具類に現れた工芸的な美しさや機能美を觀賞していただきます。 |
| 分館海の博物館 | 1 磯の生きもの図鑑 | 勝浦にある海の博物館周辺の磯で見ることのできる生きものを紹介します。 |
| | 2 理想郷生きもの図鑑 | 勝浦にある鶴原理想郷で見られる植物や生きものを紹介します。 |
| | 3 館山の海底 | 暖かい黒潮の影響を受け、南の海の生きものも多く暮らす館山の海、その海底で見られる生きものたちを紹介します。 |
| | 4 勝浦探訪 | 博物館の所在する勝浦市について、今や昔の様子を画像で紹介いたします。これらの画像は、博物館の研究員が撮影したものや地元の方々から提供されたものです。 |
| 現代産業科学館 | 1 房総ロマン紀行 | 平成12年度に行われた、千葉県立美術館・博物館合同企画展をウェブ上に再構成しました。千葉県内をはじめ全国の産業・交通遺跡をご覧ください。 |
| | 2 千葉県の産業・交通遺跡 | 平成10年に発行した「千葉県産業・交通遺跡実態報告書」をウェブ上に再現しました。88件について解説があります。 |
| | 3 西広板羽目堰 | 千葉県市原市の西広板羽目堰について組立から開放までの様子を写真でご紹介します。 |
| | 4 近代建造物調査 | 平成5年に発行された「千葉県近代建造物実態調査報告書」をウェブ上に再構成しました。78件について解説があります。 |

- 5 鉄のまちの記憶と記録
- 千葉県立現代産業科学館では産業遺産として貴重な資料を記録し、後世に伝えるため「産業技術調査」を実費しています。「鉄のまちの記憶と記録」は、こうした成果をご覧いただくため、「県立博物館デジタルミュージアム構築事業」の一環として作成したもので、JFEスチール(株)東日本製鉄所千葉地区の多大な協力をいただき、貴重な製鉄設備を写真や図面で紹介しています。

関宿城博物館

- 1 天狗への祈り—大杉神社と利根川水運—
- 霞ヶ浦の南西(茨城県稲敷市)に鎮座する大杉神社。ここは古くより、大杉様、あんば様と呼び親しまれ、天狗を神の化身とし、特に舟運関係者からは航行安全の神として信奉されてきました。
- 2 スミツカレー春を迎える行事食—
- [千葉の食文化まるごと体験] スミツカレとは、千葉県北西部に伝わる行事食で、2月の節分・初午と密接な関わりを持っています。今はなつかしい、素朴な味のひとつです。
- 3 利根川東遷と関宿藩
- 往古、利根川は関東平野を南下し、東京湾へと注いでいました。その流れを人為的に東へ東へと付け替えていったのが、近世初頭のこと。以来、利根川は江戸と関東に繁栄をもたらしたのです。
- 4 房総の船
- 四方を海と川にかこまれた房総では、多種多様な船が利用されてきました。ここでは「板図に見る船の形」と「利根川の高瀬船」について、CG画像で紹介しています。
- 5 高瀬船物語
- 利根川水系で大活躍した高瀬船は、近世における我が国最大級の川船。地方と中央を結ぶ架け橋として、非常に重要な役割をはたしてきました。
- 6 川の風景
- 坂東太郎・利根川。その源流から中流、そして下流・河口へと私たちがいざないます。川と人びとのかかわりを、みつめなおしてみましよう(動画/4分54秒)。
- 7 幕末の眼科医 高野敬仲
- 高野敬仲とは、利根川流域で活躍した眼科医。文人としても優れた才能を発揮しました。
- 8 再発見! 関宿の歴史・川の歴史
- 関宿周辺の歴史や川の文化を時代別、テーマ別にご案内します。
- 9 明治の記念碑
- 明治期は社会システムが変化し、西欧諸国の文化が取り入れられます。それらを記念して建てられた石碑の一部を紹介します。

房総のむら

- 1 千葉県の七夕馬
- 千葉県の七夕行事の内容と素朴でかわいらしい草で作った馬や牛をご紹介します。
- 2 災いくるな
- 災い除けの行事の種類とそれぞれの行事で作られたわら蛇やわら人形などをご紹介します。
- 3 房総のむらの年中行事
- 1年を周期として反復する行事を「年中行事」と呼びます。千葉県地域で行われていた年中行事を再現してご紹介します。
- 4 衣・食・住・技—房総のまちとむら—
- 私たちの毎日の暮らしを形づくり、支えている「衣・食・住」と、それをかかわる「技」。房総の諸職を中心とした『衣・食・住・技—房総のまちとむら—』について紹介します。

| | |
|-------------------------|---|
| 5 Wind & Earth | 埋蔵文化財（土中に埋まっている文化財）を専門に集め、展示・公開している「房総風土記の丘」のほんの一部を、資料館の普段の展示とはちょっと違った視点で見えていただけるように作成しました。 |
| 6 Chiba Origin | 明治時代～昭和初期の絵葉書資料（通称：山中コレクション）から、千葉県内の資料をもとに、当時の千葉県の原風景を、それぞれの時代でピンポイント的に切り取った「Chiba Origin（ちばおりじん）」として紹介します。 |
| 7 Disasters And Revival | 明治～昭和初期の絵葉書資料（通称：山中コレクション）から、当時の大洪水・大地震・大火災などの大災害の被害や救助（救援）と、その復興について紹介します。 |
| 8 探検！昔の商店街 | 様々な店が立ち並ぶ昔の町並みでは、商人は、どのように商品を販売していたのでしょうか。昔の商人たちの商品の販売の工夫について、紹介します。 |
| 9 むらの登り窯 | ボランティア参加で平成22年度に完成した登り窯の軌跡と構造を紹介します。 |
| 10 房総の民謡 | 昭和54・55年に収録した、県内に伝わる民謡の音源データです。 |
| 11 常磐道の遺跡 | 平成29年度に、（公財）千葉県教育振興財団の主催で開催した「常磐道の遺跡展」の展示図録をホームページ用に編集したものです。 |
| 12 町並み解説書 | 香取市などに残る古い町並みを参考に、商家16棟、地蔵、辻広場、稲荷境内を再現した、房総のむら商家の町並みの解説です。 |
| 13 房総の鍛冶 | 平成27年度に開催した企画展「千葉の鍛冶」の展示図録をホームページ用に編集したものです。 |
| 14 むらの底力 | 体験博物館房総のむらで「実演」を披露したり、「体験」を支える職人を順次紹介するコンテンツです。第1弾は商家の演目を支える9人の職人を紹介します。 |

博物館協議会傍聴要領

傍聴手続

- (1) 傍聴希望者は、会議開始時刻の 30 分前から 20 分前までの間に、会場受付で氏名等を記入し、事務局の指示に従って会議の会場に入室する。
- (2) 傍聴の定員は 10 名とし、定員を越えた場合は抽選とします。

会議を傍聴する場合に守っていただく事項

- (1) 会議開催中は、静粛に傍聴し、拍手その他の方法により、言論に対して公然と可否を表明しないこと。
- (2) 騒ぎ立てる等、議事を妨害しないこと。
- (3) 会場において、飲食又は喫煙を行わないこと。
- (4) 会場において、写真撮影、録画、録音等を行わないこと。ただし、議長の許可を得た場合はこの限りではない。
- (5) その他会場の秩序を乱し、会議の支障となる行為をしないこと。

会議の秩序の維持

- (1) 傍聴者は、会議を傍聴する場合は、係員の指示に従うこと。
- (2) 傍聴者が会議を傍聴する場合に上記事項に従わない場合は、退場とすることがある。